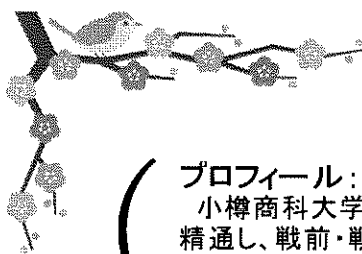


「建国記念の日」不承認

軍国主義思想の復活に反対し思想と信教の自由を守る

2・11 埼玉県民集会

国民の戦争支持・協力は、 どうつくられるか



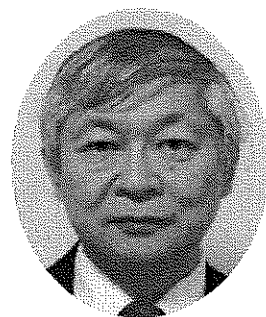
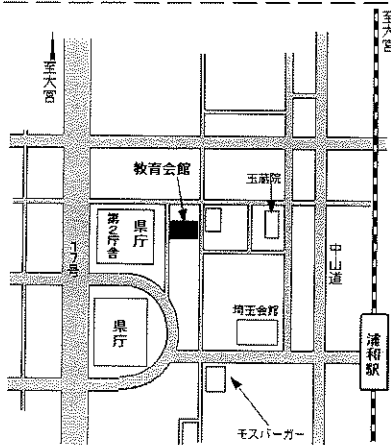
荻野富士夫さん

プロフィール:

小樽商科大学名誉教授 歴史学者 1953年生まれ。日本近現代史に精通し、戦前・戦後日本の治安体制に関する講演や著書多数。著書に『「戦意」の推移 国民の戦争支持・協力』(校倉書房)『多喜二の時代から見えてくるもの—治安体制に抗して』(新日本出版社)

安倍政権は、天皇の代替わりを前になんとしても2019年通常国会での憲法改正発議を画策しています。また「特定秘密保護法」「共謀罪」で国民を監視し、権利を抑圧することで新たな治安体制づくりを進めてきています。

暗黒時代に生きた小林多喜二の時代を把握し、安倍政権の新たな戦時体制の構築にどのように対峙し、取り組んでいくか、学び合いましょう。



* 2019年 2月11日 (月)

13時開場、13時半～15時半 (終了後パレード)

* 埼玉教育会館2階 参加費200円

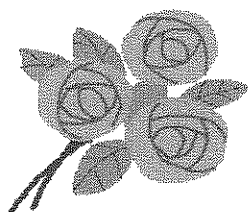
2・11埼玉県民集会実行委員会

埼玉県歴史教育者協議会／埼玉県教職員組合／埼玉県高等学校教職員組合／日本共産党埼玉県委員会／埼玉県平和委員会／治安維持法犠牲者国家賠償要求同盟埼玉県本部／新日本婦人の会埼玉県本部／埼玉母親大会連絡会／日本民主青年同盟埼玉県委員会／日本国民救援会埼玉県本部／日朝協会埼玉県連合会／埼玉県地域人権運動連合会／日本機関紙協会埼玉県本部／埼玉県革新懇／埼玉県労働組合連合会／埼玉AALA連帯委員会／埼玉映画文化協会／自由法曹団埼玉支部／自治労連埼玉県本部／埼玉県教育研究サークル連絡協議会／さいたま教育文化研究所／埼玉県民主医療機関連合会／安保破棄埼玉県実行委員会 (順不同)

【事務局】埼玉県高等学校教職員組合 048-822-7421

「建国記念の日」とは？

「神話と伝説」によるもので
科学的な根拠はありません



いま「建国記念の日」とよばれ、祝日となっている二月一日は、戦前・戦中は「紀元節」とよばれていました。これは一八七四（明治七）年に明治政府が決めたもので、初代の天皇・神武が即位した日とされています。

しかし、これは「神話と伝説」によるもので、科学的根拠はまったくなく、いまでは神武天皇は架空の人物であることがはっきりしています。

当時の「紀元節」は、天皇を神聖化する「大日本帝国憲法」発布の日であり、同時に日露戦争をはじめとして戦争政策を鼓舞し、軍国主義をあおる「祭日」となっていました。

かつて、日本国民のみならず、アジア諸国をはじめとする他国の人民二〇〇〇万人の尊い生命を奪ったあの侵略戦争に、日本国民をかりたてたイデオロギーの基礎になったものが「紀元節」だったのです。

敗戦によって天皇が「人間宣言」を行いました。これによって「神話と伝説」は否定され、「紀元節」もその根拠を失いました。平和主義、

国民主権の新しい憲法のもとでは、当然のことながら「祝日」ではなくなつたのです。

ところが、朝鮮戦争が起こる前後から政府は軍備拡大にのりだします。これと並行して「紀元節」を復活させようとする動きを強め、一九六七（昭和四二）年に広範な国民の反対を押し切って「建国記念の日」を制定したのです。

以来、推進勢力は毎年「建国記念の日を祝う式典」を開き、閣僚や国会議員も参加しようとする動きもあります。

こうした動きに対し、かつて侵略をうけた国々では、不信と警戒を強めています。

一方、最初の「建国記念の日」以来、言論や表現、思想・信条の自由を侵すものとして毎年二月一日には、全国各地で「建国記念の日」不承認、再び戦争への道を歩ませるな、と多くの労働組合・民主団体・学者・研究者・ジャーナリスト・宗教家などが、実行委員会をつくり抗議集会を開いています。

